

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 12 日現在

機関番号：32644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770158

研究課題名(和文) 中国雲南省大理白族の白文資料の保存と解読法の確立

研究課題名(英文) The Preservation of the Texts of the Bai people in Yunnan Province of China, and Exploring Methods of Reading Them.

研究代表者

立石 謙次 (TATEISHI, Kenji)

東海大学・文学部・講師

研究者番号：50553426

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1)失われつつある中国の少数民族の一つである白族の民間芸能「大本曲」で用いられる白文の台本(曲本)を撮影して保存し、これを公開する。2)テキスト化した白文の台本にローマ字表記を付し、白語発音で読めるようにし、中国語・日本語訳を作成する。3)テキスト化した白文資料を分析し、白文表記の規則性と特定の用語彙を解明し、あわせて語彙集などの工具書を作成する、という3つの目標を掲げ、調査研究をおこなった。

研究成果の概要(英文)：This study attempts to achieve the following three goals. First, to photograph the texts of the Da Ben Qu 大本曲 which records the folk entertainment songs performed by the Bai people, an ethnic minority living in Dali, Yunnan, and make them accessible for public use. Second, to romanize the texts so that they can be read in the Bai language and Roman character and pronouncing by Bai language, and translate them into Japanese and Chinese. Third, to analyze the texts of Da Ben Qu, to elucidate the rules of the Orthographic system of the Bai language by Chinese characters and the distinctive pattern of word choice, in addition to compiling a vocabulary.

研究分野：言語学

キーワード：白族 民間芸能 中国 少数民族 白文

### 1. 研究開始当初の背景

白族(ペー族)の人口は約160万弱、中国雲南省の西部、大理白族自治州と中心とした地域に多く居住している。彼らの先祖は歴史上、漢文を用いて文章を残してきた。一方で、大理白族の一部では、特定の漢字を用いて白語で読むといった方法も用いられてきた。これを白文(ペー文)と呼んでいる。原理としては日本の万葉仮名に近い。その使用される地域を具体的に言えば、大理州の白族居住地域の中でも、大理市喜洲鎮・洱源县・劍川県において、わずかながら行われているのみである。

このように白文はもともと白族地域の中でもごく限られた地域で行われてきており、また宗教職能者や民間芸人といった特定の職業の間でのみ通用している表記法である。この表記法の起源は定かではないものの、少なくとも唐代には、その原型がみられる。その後、元・明代になると大理地方の石碑にも、白文がみられる。現在では民間芸能の曲本(台本)や宗教儀礼書に使用されている。

報告者は、これまで白族の民間芸能である「大本曲」の曲本を中心に白文、特にその曲本中にみられる白文の漢字表記について分析を進めてきた。「大本曲」は白族の特有の民間芸能で、歌い手と三弦(三味線)の二人で行う芸能である。歌は白語と漢語との併用で、曲本の白語部分は漢字による白文を用いている。ただしこれまで大本曲の曲本が一般の目に触れることはほとんどなかった。

近代以降、白文は歴史・宗教研究・民間文学の分野でわずかながら研究が続けられてきた。これまでの白文研究ではその内容を漢語に意識して紹介しただけのものがほとんどであり、特に本研究で対象とする大本曲の曲本の内容・表記規範についての研究はなかった。現在に至るまで、その他の白文文献内容の分析、表記法及びその文化的意義の全体的状況についての研究は、ほぼ手付かずのままである。

### 2. 研究の目的

白族の民間芸能「大本曲」の白文テキストを撮影し保存し、公開する。

テキスト化した白文にローマ字の発音表記を付し、中国語・日本語訳を作成する。

白文表記の規則性と特定の用語彙を解明し、語彙集を作成する。

これまでの白文研究では、白文をどのように読むべきかという方法論、白文表記の特定語彙の使用とその規則性については全く議論されてこなかった。これまで大本曲の曲本の内容は、中国の研究者による漢語の大意によってしか、その内容を知ることができなかった。たとえば、白文は、漢語を白語の発音で読んだり、白語の語彙を漢字で書き表したりする「音読」と漢語表記を白語の語彙で読む「訓読」が混在している。しかも、白語の語彙に対して、どのような漢字を用いて「音

読」し(あるいはどのような漢字を音仮名として用いるのか)どのような漢語語彙を「訓読」にするのかという情報が体系的に得られていない。

ただし報告者の経験からもこれら白文の読み方には一定の傾向はみられる。本研究では、どのような語彙を「音読」にしたり(またはどのような漢字を音仮名したり)、「訓読」にしたりするのかをデータベース化し、具体的に語彙集の形で公表することを目標とした。これにより白文を解読する過程で得られた情報から、白文を読むための方法論を確立することを目指した。

本研究の完成は、単に白文資料を保存し、内容の一端を日本語及び中国語によって示すと言うことだけではない。ローマ字による白語表記の併記と語彙集を作成し、その解読方法を研究者及び白語話者に示すことによって、今後の白文にかかわる研究・理解の発展につながるものと大いに期待できるものである。ひいては、現在急速に失われつつある白語及び白族の伝統の価値を白族自身にも再確認してもらうことにもつながると考えられる。

これにより歴史上、白族が漢字を受容しながら、いかにして自民族の言語を保持・表現してきたかということ、白文という具体的例によって示すことになる。また大本曲の演目は、中国の民間芸能や、民間宗教の經典である宝巻の内容と共通しているものも多い。このことは、中国の非漢族がどのようにして漢字をはじめとする漢文化を受容・利用してきたという中国西南における漢族と非漢族との関係性の一端を明らかにすることもできると考えられる。

### 3. 研究の方法

現地にて曲本を撮影して、その画像からテキスト化し、これらをインフォーマントの指導のもと分析を加えて発表する。またテキストから語彙集を作成し、語彙の使用例などを分析する。

本研究では、まず急速に失われつつある大本曲の曲本(テキスト)を保存し、これを公開する。その上でこれらテキストを日本語及び中国語に翻訳し、白語の発音記号を付したテキストに語彙集を作成して、分析、解読し、白文表記の法則性を明らかにすることを目指した。現在、大本曲の演目は82本知られている(楊業政主編『大本曲簡志』、雲南民族出版社、2003年)。ただし、芸人が所有する曲本は、それぞれが自分たちの師匠や同業の芸人から書き写し、創作を加えてきたものである。このため同じ演目でも、全く同じ曲本は存在しない。しかもその芸人に後継者がいない場合は、これら曲本はすべて失われることになる。このため本研究では、できる限りの撮影による保存と、紙媒体及びHPなどによる公開を目的とした。ただし漢字で書かれた白文は、「訓読」・「音読」などの複

雑なルールが混在しており、これらテキストを解読するためには、インフォーマントからの聞き取りをもとに分析・確認を進めた。

具体的な方法としては以下の手順で行った。1) 大本曲台本の所蔵者より台本を借り受け撮影した。2) 記録した画像より台本の内容をテキスト化した。3) 同時にインフォーマントに画像を確認し、読みあげてもらいこれを録音した。4) 録音した音声資料を基にテキストに音声記号(ローマ字白文)を付した。5) インフォーマントについてローマ字白文を付したテキストの文字・発音を再確認してもらい、漢語・日本語への翻訳を行い、内容を分析した。6) 完成したテキストより語彙集を作成した。これら分析を通して完成した資料に解説を付し、出版を目指した。

#### 4. 研究成果

平成25年度から26年度にかけて4回の現地調査を行った。その際、52件の大本曲の台本を撮影・記録した。これら台本は、これまで一般に紹介されることがなかった資料であり非常に価値がある。そのうち8件の台本については実際に所蔵者に上演を依頼し、撮影記録した。

論文については2本の論稿を発表した。一つは南詔国・大理国時代までさかのぼり、現代白族の住む大理地方がどのように中国(唐・宋)との関係を結んできたかを考察した。もう一つは分析済みの大本曲テキストである『黄氏女対金剛経』を利用し、白族の宗教的世界観について考察した。

学会発表などは4件おこなった。1) 一般市民向けの講演では、白族の民間芸能の概要と現状について発表した。2) 学術シンポジウムでは日本と中国少数民族の他界観について検討し、その中で白族の事例を紹介した。さらに3) 学会において白文の用法についての発表を行った。言語学を専門とする研究者から有益な意見交換をおこなった。4) 国外では香港科技大学において、白族とその先祖の王権思想・宗教的世界観を中心に発表を行った。香港・中国・東南アジアの研究者たちと意見交換を行い、貴重な指摘を受けた。さらに大理歴史文化研究所が管理するyouku「大理歴史文化研究所頻道」にて、報告者が記録編集を行った大本曲「≡(金+則)美案」の上演映像をアップロードし、一般に公開した(演唱王祥氏、三絃孫金堂氏)。(URLは<http://i.youku.com/daliwenhua>)

2014年度の7月には、分析を終えた台本を完成させ、中国の広西師範大学出版社と出版契約を結び、2015年度中に出版を予定していた。しかし出版社側の都合により、いまだ出版を果たせていない(予定タイトルは、『大本曲『≡(金+則)美案』の研究』雲南大理白族の白文の分析)。出版交渉については現在も交渉中であり、双方とも出版の予定では一致している。

中国での出版に問題が生じたため、研究協力者の吉田章人とともに別のテキスト『黄氏女対金剛経』の分析を進め、成果出版を目指したものの、残念ながら完成が2016年3月となり、最終年度中の出版を果たせなかった。現在この分析を終えた原稿は東京外国語大学アジア・アフリカ研究所より出版を予定しているものの、出版時期は未定である(予定タイトルは『大本曲『黄氏女対金剛経』の研究』雲南大理白族の白文の分析)。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

立石謙次 再帰唐以降の南詔国の権力構造—特に再帰唐から豊祐即位までを中心に—、方国瑜誕辰一百一十年紀念文集、2013、査読なし、pp.312-333、雲南大学出版社

立石謙次 変わる墓葬—雲南省大理地方を中心に—中国21、査読なし、Vol.41、2014、pp.63-86

〔学会発表〕(計 4件)

立石謙次 雲南省大理白族(ペー族)の民間芸能と民族文字、雲南省大理白族(ペー族)の民間芸能と民族文字、2015年10月、学校法人東海大学望星学塾(東京都三鷹市)

立石謙次 雲南省白族の事例、「古事記学」の構築 国際シンポジウム 葬送の神話—東アジアの他界観と『古事記』—、2016年1月、國學院大學渋谷キャンパス(東京都渋谷区)

立石謙次 南詔国・大理国の王権思想、香港科技大学人文学部イベント、2016年3月、香港科技大学人文学部、香港(中国)

立石謙次 雲南省大理白族の白文の用法—「訓読」・「音読」を中心に—、中国語文学会、2016年3月、東京語文学院(東京都豊島区)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

youku 大理歴史文化研究所頻道

<http://i.youku.com/daliwenhua>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立石謙次 (TATEISHI, Kenji)

東海大学・文学部・講師

研究者番号：50553426

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：